

## 新刊 Book Reviews

□コロナ・ブックス編集部(編)：牧野富太郎  
植物博士の人生図鑑。B5変。128 pp. 2017. 平凡社。  
¥1600+税。ISBN 978-4-582-63510-2 C0023.

かねてから牧野富太郎の業績を植物分類学史のうえで科学的に評価してほしいと思っている。本書を手にそう期待してページをめくった。本書には「まえがき」も「あとがき」もない。本書出版の意味が分からなかったためである。本書には、牧野の写真、植物図、原稿、蔵書などいろいろと豊富に集められており、それらが「牧野式植物図」、「牧野式評伝」、「牧野の実り」などの項目に分類されて紹介されている。図も写真もよい。牧野語録も豊富に集められている。図や写真にはそれぞれ牧野の著作から抜き出した短文が付されており、「私の腕の記念碑である」とか「芸が身を助ける不仕合わせ」とか興味をそそる表題がつけられている(表題のないものもある)。前の短文は「牧野富太郎自叙伝 植物学雑誌の創刊」中にある、後は「植物記 私と大学」中にあるというが、表題は編集者がつけたものようである。牧野の植物画について大場秀章氏の、晩年の牧野について田中純子氏の2編の隨筆を含む。巻末には牧野富太郎略年譜などがある。

「私のハアバリウム」Herbarium of Makinoと題されている部分の内容(pp. 066-067)はタイトルと違って「私のおしば標本」か「私のハアバリウム・スペシメンズ」が適切であろう。この部分に牧野の言葉「明治17年に私ははじめてヤマトグサを土佐で採集したが、その翌年に渡辺という人がその花を送ってくれたので、私は大学の大久保君と共に研究し学名を附し発表した。これによってはじめて日本にヤマトグサ科という新しい科名を見るに至った」が引用されている。しかし、ヤマトグサは1889(明治22)年にイラクサ科として発表されたのであり、これを牧野がヤマトグサ科としたのは1894(明治22)年なので、ヤマトグサの発見とヤマトグサ科の新記録が混同される原因はこの辺にあるらしい。なお、ヤマトグサ科はAPGIV分類体系ではアカネ科に変更されて消滅した。また、このページにMAKのヤマトグサの標本写真があり、その標本はシンタイプsyntypeである。

本書は「まえがき」に代わって巻頭には牧野富



太郎の「あるいは草木の精かも知れん」の文章が置かれている。その文章の一部を少し長いが、孫引きする。「草木は私の命でありました。草木があって私が生き、私があつて草木も世に知られたものが少なくないです。草木とは何の宿縁があったものか知りませんが、私はこの草木の好きな事が私の一生を通じてとても幸福であると堅く信じています」。次いで「オニバスの幼株を首に掛けた」牧野の1939(昭和14)年77歳の写真がある。実に幸せそうな牧野で、牧野の文章によく一致している、この素晴らしい写真をここに置いた編集に感心した。「あとがき」に代わって『牧野富太郎植物記2 野の花2』からの「どうかみなさんも、植物に親しんでください。そして少しでも多くの知識を身につけてください。それが一生を通じ、どれほど人生を豊かにするか分かってもらえると思います」で結ばれている。本書は植物学の本ではなかったが、見れば分かるように編集されており、牧野富太郎植物博士の人生が上手に引き出されている。

(大橋広好 H. OHASHI)

□尾形之善：写真で見る 種子島の自然 改訂版 86 pp. 2017. たましだ舎. ¥1200+税。ISBN 978-4-9904915-0-5 C0640.